

⑦ 畳道場の研修

○研修者を迎える

55 色変わりが少なく、
丈夫で長持ちする国産イグサ。
その品質の高さを、
もっと知ってもらうために、
下永さんたちは、
畳屋さんとの交流を
深めています。

○研修者たち

56 イグサの事を知りたいと思う
畳屋さんたちを、それぞれの農家が
受け入れ、

○下永家へ到着

57 下永さんの家には、石川県の畳屋さんが
やってきました。

○話す中村さん

中村さん「その年によって草の生え
方とも違いますんで、それを
今年はどうな感じの草ができて
いるのかとか、それでもっとイ
グサについて学べたらなんと、来
ました」

○コンテナに積む

58 今回、参加した畳屋さんは
全国各地からやって来ています。
交流が始まったきっかけについて、
畳屋さんの代表、
鏡さんに話を聞きました。

○話す鏡さん

鏡さん「一回ぐらいいは見なきやなど
いう軽い気持ちで来たんですね。
そして産地に来てみたら産地の
現状は自分達全く知らないでや

○手伝い風景

○話す鏡さん

っていたと。
このままでいけば本当にイグサの農業がなくなるという危機を感じて、2年ぐらい通って初めて今日、家に泊まっていけっという話になって、まあまずはイグサの刈り取りをやってみるとあの一番大変な仕事をやると農家の気持ちがちが分かる、そうした体験をした畳屋さんはいい畳をお客様に伝えることができるわけで、価格競争の中、やっぱり安いもの安いのってずっど行ってるんですけども、その中で、やっぱり国産品で品質の良いものをお客様にどうやって伝えるかっていうのが、身体で分かる、それがすごく大きいですね」

○夕食風景

59 1日の仕事を終えてくつろぐひと時。

○馬刺し

60 今晚のごちそうは、熊本名物の馬刺しばさしと、からしレンコンです。

○からしレンコン

○団欒風景

61 イグサ談義は尽きません。
明日も朝早いですよ、
大丈夫かな？

○イグサ取り出し

62 大丈夫でした。
中村さん、早朝からがんばっています。

<p>○長さの選別</p>	<p>64 製織では、まず、1年ほど保存しておいたイグサを取り出して、長さごとに選別します。</p>
<p>⑧ 製織・出荷</p>	<p>○話す下永さん</p> <p>63 こうして2泊3日の研修もあつという間に終了。中村さん、今回はどんな感想を持ったのでしょうか。</p> <p>○話す中村さん</p> <p>中村さん「今年は天候も不順で不作かなど、去年より比べて、そういうのをちょっと心配していたんですが、今回、下永さんの草に実際触らせていただいて、ほんとに実の詰まった、ほんとに丈の長い表を見たんで安心しました」</p> <p>下永さん「畳屋さんが畳表を敷く技術はもっておられます。でも、どうやって畳表が織られ畳屋さんに行くかというのは全然知らないんですよ。いまの若い人たちはこっちへ来て初めて、ああこうやって私たちが扱う畳表はできているんだなあっていうのを実感して帰られます。自然とですね、下永さんおかげで売上が伸びましたとか結構いい報告が来ます」</p>

<p>○傷のチェック</p>	<p>65 さらに、イグサの傷や太さ、色のチェックを自分の目で行います。</p>
<p>○製織状況</p>	<p>66 そして、一枚一枚時間をかけて畳表に織り上げていきます。 1帖当たりおよそ6000本のイグサで畳表をつくります。</p>
<p>○出荷場へ運ぶ</p>	<p>67 製織した畳表に傷がないか丁寧に調べてから出荷します。</p>
<p>○積まれた畳表</p>	<p>68 製品に対する責任を明確にするため、生産者番号を示すステッカーをつけて全国に出荷しています。</p>
<p>○畳屋さん外観</p>	<p>69 出荷された畳表は流通業者の手を経てまちの畳屋さんに届けられます。</p>
<p>○畳表の張替柄え</p>	<p>70 いまはほとんどの畳屋さんが、機械を使って、畳表の張り替えを行っています。</p>
	<p>71 畳屋さんが置かれている現状にはやはり厳しいものがあるようです。</p>

○機械を操作する
木村さん

木村さん「前はアパートなんかにも
畳の部屋があったんですけど、
いま立つアパートは畳の間がほ
とんどなくなってるし、
不動産屋さんの方も、今の若い
人たちは割とフローリングが好
きだからということ、アパー
トの和室もフローリングに変え
たりとかされてるみたいで、需
要っていうか枚数が減ってるみ
たいですね」